

# 春の足音



桜の花の下で（撮影：山口義雄）

## 特集

### 「保護者相談会」開催 —新入生の保護者の疑問にこたえます—

- 平成18年度入試広報アンケート結果
- 医療福祉教養講座
- 第三者評価
- 編入学支援
- 授業・実習風景⑤
- 事務部から
- 教員の活動紹介⑧
- 先輩から後輩へ⑧
- 新任教職員紹介
- インフォメーション

特集

# 「保護者相談会」開催

― 新入生の保護者の疑問にこたえます ―

## ご挨拶

学長 守田 哲朗



ご子弟の入学おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本学は、昭和四十八年四月の開学以来、「人をつくる、体をつくる、深い専門的知識・技能を身につける」という建学の理念を教育の基本に据えて、卒業後直ちに「チーム医療」の場で活躍できる高度な専門知識と技術を持ち、心豊かで幅広い教養を身につけた医療・福祉専門技術者の養成に全力を挙げ、大きな成果と高い評価を得ています。

各学科のカリキュラムは、講義偏重でなく、むしろ実習や演習、特に病院や施設での実習に力を入れるなど、他の大学が真似できないほどの充実さを誇っています。

わが国における昨今の大学改革の動きは、実に目まぐるしいほどです。今日では、すべての大学で実施されている自己点検・評価もその一つで、学内での点検・評価だけでなく、他大学との相互評価や第三者による評価も受けなければならなくなりました。本学は、早速、昨年十月に短期大学基準協会が実施した第三者評価を受けました。教

育や学生支援、研究、社会的活動、管理運営などの領域について報告書を作り、訪問調査を受けました。その結果、「本学がすべての領域にわたって評価基準を充たしているので適格である」というお墨付を頂戴しました。

しかし、このように教育環境が素晴らしく、恵まれたものであっても、教育や学習の主役はそれを受ける学生諸君なのです。学生諸君のやる気と努力なしでは、教育効果を期待することはできません。

この点、ありがたいことに、学生諸君の多くは、優秀な医療・福祉専門技術者になるという目的意識を持って入学してきています。このために、ほとんど全員が国家試験に合格し、専門を活かした職種に就職しています。学生諸君のこの熱意と努力も本学の発展に大きく寄与しており、ありがたく思っています。ご子弟もどうか先輩に後れず、目的意識を持ち続けてほしいと願っております。



平成19年度入学式の様子

## 保護者相談会

# Q&A

入学式の後、学科ごとに保護者に集まって頂き、「保護者相談会」を開催しました。内容は、学長からの挨拶から始まり、入学から卒業までの教育過程などの説明、そして保護者からの質問と続きました。残念ながら入学式にお越しになれなかった保護者の方々も多数いらつしやると拝察し、学科ごとに相談内容をQ&A形式でまとめました（全学科共通の質問は末尾に記載）。実際に出された質問と教員側からの回答を抜粋し、若干の補充説明を加えておきます。



相談会場へ向かう保護者の方々（ちょうど桜が満開です）

## 看護科

**質問** 選択科目はすべて受講した方がよいでしょうか。また、すべて受講できるカリキュラムになっているのでしょうか。

**回答** 本学科では、すべての選択科目が受講できるようにカリキュラムを組んでいます。基礎分野は、選択科目をたくさん準備していますが、本人の希望に応じて卒業に必要な単位数以上がとれるように選択受講すれば十分です。

**質問** 四年制大学への編入学の利点は何ですか。

**回答** 保健師または助産師の国家試験の受験資格を得ることが可能になります。また、養護教諭養成課程のある大学、あるいは指定の看護大学で所定の単位を取得すると、養護教諭一種の免許を得ることができ、同時に、大学卒業時には学士が取得できます。本学科からは、毎年十人前後の学生が四年制大学に編入し、その内数名が国立大学に合格しています。

**質問** 編入学と国家試験の学習は両立できるのでしょうか。

**回答** 受験の時期は、編入学の場合が八月から十一月、看護師国家試験が二月下旬と異なるので、どちらの受験勉強も可能です。それぞれ計画的に学習を進めれば大丈夫です。どちらも最終学年での受験となりますので、一年次から計画的に学習を進めていくことが望ましいと思います。

**質問** 将来、助産師を希望しています。三

年間の看護学の学習だけでも大変そうですが、助産師養成校へ進学できるでしょうか。

回答 入学時から目的意識がしっかりされていることはすばらしいと思います。助産師になるためには、助産師養成課程のある大学への編入学、あるいは短大の専攻科や専門学校へ進学するコースがあります。本学は、進学者希望者へのサポートシステムが整っています。希望に応じてどちらかを受験されるとよいと思います。目標が明確ですので、一年次から学習を積み重ねていくことで、助産師学校進学への道も開けてくると思います。



個別相談の様子（看護科全体会参加者：85組）

**質問** 専門分野の選択科目である「看護研究」は受講した方がよいでしょうか。

回答 進学希望の場合は、受験の面接で研究内容を質問されることがあるので選択した方がよいと思います。

**質問** 寮生活は初めてですが、自分で学習する環境を整えられるでしょうか。

回答 寮は個室なので比較的自分の時間を作りやすいと思います。どうしても周囲が気になって集中できないときには、図書館や教室を活用することができます。

### 臨床検査科

**質問** 土曜日にも授業はありますか。

回答 月曜日から金曜日までが原則ですが、一年次前期の土曜日には、高校で履修していない教科の補講などを組んでいます。これは、全員が対象というわけではなく、教科別に学習が、ややうまくいっていないという学生を対象にしています。平日も五時限目（十六時二十分から十七時五十分）まで授業を実施することがあります。大変だとは思いますが、週末は有効に活用していただきたいと考えています。

**質問** 成績はどのように通知されますか。

回答 前期の試験は八月上旬に実施され、その成績は、十月初旬に各担任から学生に直接手渡されます。後期の試験は二月初旬から実施され、当該学年の総合成績が三月下旬に自宅に郵送されます。

**質問** 就職活動の状況や最近の国家試験合格率について教えてください。

回答 三年次四月の就職説明会から活動が具体的に始まります。夏休みを利用して施設見学などを行わない、九月から十二月頃をピークに就職試験が実施されます。最近の本学科の



グループに分かれての相談会（臨床検査科参加者：約80人）

求人件数は少し上向きになり、昨年は二百件以上ありました。

本学科の国家試験合格率は、平成十六年度が100%（全国合格率75・2%）、十七年度が93・8%（全国合格率72・9%）、十八年度が83・1%（全国合格率74・7%）で、いずれも全国の合格率を上回っています。国家試験対策などの学習面だけではなく、精神的な面でもサポートを行い、学科をあげて国家試験合格を支援しています。

**質問** 血液などの試料を扱いますが、感染の危険はありませんか。

回答 感染の危険はゼロではありません。しかし、感染防御や感染性廃棄物の処理などの指導は折に触れて行います。病原体に関することや感染防御に対する確かな知識を身に付け、状況に応じて適切な対応ができるよう徹底的に指導しています。

**質問** 一年生六十九名に対して担任は一名だけですが、大丈夫でしょうか。

回答 一年生の担任は一名だけですが、二、三年生になると副担任一名がサポートにつきます。病院での実習の精神的な面や、国家試験に向けての学習・生活指導など、担任・副担任が連携をとり、細かな点までサポートしています。また、学生の動向に関しては、さしつかえのない範囲で学科内教員が情報を共有し、授業や実習を通してフォローしています。

### 放射線技術科

**質問** 親としては将来、四年制大学への編入学を希望していますが、子供が編入学

の受験勉強に専念し、授業についていけなくなる不安です。適切な時期に確かな編入学の受験指導をしていただけるのでしょうか。

回答 学科内には四年制大学放射線技術科の教員経験者がいますので、編入学の仕組みや求められる学力等については熟知しています。お子様の学内での成績と見合わせて、適切な時期に的確な編入学の受験指導をきめ細かく行います。本学科における、昨年度の編入学試験合格者は六名で、全員国立大学への入学ではないという訳ではありません。

本学科では、平成十八年度私立大学教育高度化推進特別経費として「マルチメディア活用無線ネットワークの「e-learning」システムの構築」が認められました。これに関連して平成十九年度入学生に、教室でインターネットやeラーニング（IT技術を活用した教育システム）が活用できるノートパソコンの斡旋をしています。これに関連した質問を三件取り上げます。

**質問** 斡旋機種が二機種ありますが、どちらにしたら良いでしょうか。

回答 今回は、学科内で選んだ液晶画面の大きさが15インチと12インチのノートパソコンを斡旋しています。



熱心な質問が続きます。（放射線技術科参加者：約40人）

性能はほぼ同じですが、12インチのコンパクトサイズの方が若干高額です。学内での利用、自宅やアパートでの使用、移動の頻度などを考え合わせ、どちらかを選んで頂ければ結構です。

**質問** アパートで、ADSLや光ケーブルなどによるインターネット接続を考えていますがどうでしょうか。

**回答** 一定の条件を満たしたうえで、所定の手続きを行えば、お持ちのノートパソコンも学内で無線LANに接続できます。また、四〇〇号情報教育室には、全学の学生が利用できるネットワーク接続のパソコンもあります。当面は大学の環境を利用し、十分検討されてからアパートでのインターネット接続を申し込みされたほうが良いと思います。

**質問** 幹旋品を購入することになっていますが、操作方法などの説明はあるのでしょうか。

**回答** ノートパソコンの引渡し時に業者に来てもらい、電源の入れ方から各種初期設定やユーザ登録などを一斉に行う予定です。その後のアフターケアについては、担当教員が窓口となり対応することになっていきます。

## 介護福祉科

**質問** 現在の介護福祉士を取り巻く状況はどのようなになっていますか。

**回答** 介護福祉士を取り巻く状況ですが、二つの課題が取沙汰されています。量の問題と質の問題です。介護福祉士の人数

については、急速に進む高齢化を受け、十分確保できていないのが現状です。これを補うため、国は日比経済連携協定に基づき、フィリピン人を介護福祉士、看護師として養成・雇用しようとしています。また質については、世の中はより質の高い介護福祉士を望んでいます。現在、介護福祉士になるためには養成施設を卒業する方法（国家試験免除）と、国家試験を直接受験する方法（実務経験など要件あり）の二つの方法がありますが、将来は、養成施設を卒業した者も国家試験を受験しなければ取得できない資格に変更される予定です。

このように世の中は、より質の高い介護福祉士を望んでいます。本学では、卒業と同時に介護福祉士が取得できますが、世の中の期待にそえる高い資質を持った人材に育っていくためにも、実習や講義内容はとても濃くハードスケジュールだと考えていただいた方が良いでしょう。



全体会の様子（介護福祉科参加者：28人）

**質問** どのような施設で実習を行うのですか。

**回答** 要介護高齢者や障害者が生活している介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、身体障害者療養施設、重症心身障害児施設などが実習施設となります。これらの施設では、最大四週間の集中的実習を行います。各施設は、岡山県内に点在しており、本学と相互に契約を結んでいます。各施設の学生の受け入れ人数は制限があるため、介護福祉科の教員が学生の状況や施設の特徴等を考え合わせ、なるべく自宅や下宿から公共交通機関で通える範囲で配置を行います。しかしながら交通の便の都合などで宿泊して実習をしていたり場合もあり、その時は学生本人の意向も十分踏まえた上で行います。

**質問** 短大卒業後の進路について、どのような方向性があるのでしょうか。

**回答** 卒業後多くの学生は福祉施設に就職します。就職先は、自ら探し出す方が自身の身の適性にあったものを選びますが、本学科へも毎年数多くの求人を出していますが、就職先に困ることは全くありません。就職後、現場での経験を積むことで介護プランを企画・立案するケアマネージャー資格や、より専門性の高い専門職資格を取得することも可能です。また、例年、一割強の学生が四年制大学へ編入し、社会福祉士、精神保健福祉士などその他の資格取得に挑戦しています。主に川崎医療福祉大学への編入が多く、介護福祉科では成績優秀者を推薦基準に則って推薦することがあります。

## 医療保育科

**質問** どのようにして実習先を決めているのですか。

**回答** 基本的には、岡山県内の保育士養成校が所属する岡山県保育士養成協議会で決めます。この協議会では、岡山県内の保育士の養成校がそれぞれ希望を持ち寄り、実習時期が重なっている養成校同士の協議の上で、それぞれの学生の実習先を決定しています。

**質問** どのようにして就職が決まるのですか。

**回答** 一二年次の後期から、就職支援ガイダンスを始めています。学生の希望する業種に進むことができます。学生の希望する業種をはじめ全教員で支援します。しかし、就職は受け身ではなく、在学中から、長期休暇を利用して保育所や幼稚園、施設などで自主実習をしたり、興味のある業種の情報を集めたりしながら、学生自身が積極的に活動する必要があります。

**質問** 幼稚園の二種免許状は、一種免許状



保護者の質問にこたえました。（医療保育科参加者：36組）

とどのように違うのですか。就職の際に違いはありますか。

**回答** 短大を卒業して幼稚園教諭の免許状を取得する場合は、二種免許状となります。昨年度の場合、岡山市・倉敷市では一種、二種は問わずに幼稚園教諭普通免許状を取得している者（取得見込みを含む）に対し採用することもあったようです。また、就職後に幼稚園教諭としての経験年数に応じて、必要な単位を大学や認定講習などで取得すれば、さらに上級の免許状を取得できることになっています。

**質問** はじめて一人暮らしをさせるのが心配です。

**回答** 本学は、担任制を採用していますので、学習だけではなく生活面の不安も気軽に相談できる体制が整っています。また、学生相談室にも専門のカウンセラーを配置していますのでご安心ください。

**質問** 編入学の状況を教えてください。

**回答** 約一割程度の学生が四年制大学への編入を希望しています。編入希望者に対しては、編入学支援を実施しサポートしています。

## 全科共通

### ◆健康管理について

学内には医務室があり、専任の養護職員が待機し、症状に応じたアドバイスや適切な病院を紹介しています。すぐそばには川崎医科大学附属病院があり、急病の場合も速急に対処可能です。また、新たに学生相談員二名が加わり（本誌十

ージ参照）、計三名がカウンセリングにあたっていますので、精神的なケアも十分に行われています。

### ◆編入学について

近年、編入学の希望が増加し、各学科とも約一割の卒業生が編入学するようになりました。保護者の方々も関心が高く、各学科で多くの質問が寄せられました。

本学では、「編入学等支援ガイダンス」を年数回行い、編入学希望者に対して説明やアドバイスをしています。ガイダンスの様子は、本誌七ページの「編入学等支援ガイダンス」をご参照ください。

試験対策として、「小論文」と「英語」の個別指導が、一般教養の専門教員によって曜日と時間を指定し毎週行われています（原則として最終学年を対象）。また、「専門教科」に関しては、各学科の教員が個別に質問に応じ、学力の向上を支援しています。



入学式を終えた笑顔の新入生

平成十八年度

# 入試広報アンケート結果

広報活動推進委員会では、入試広報の参考にするため、平成十八年度新入生全員を対象にアンケートを実施しました。質問項目は、本学を知りきっかけ、受験の決定要因、ホームページ、大学案内、オープンキャンパスなどの評価、入試問題の感想、入学前イメージ、入学後イメージなど三十項目にわたります。アンケート結果は学科ごとに集計しましたが、ここではその一部を報告します。

### ■本学を知りきっかけ

受験情報誌と先輩・知人の紹介が最も多く、次いで高校の指導、ホームページ。

### ■決定材料

本学の大学案内資料やホームページからの情報が大きく影響。オープンキャンパスも参考にしているようである。

### ■選択のポイント

国家資格取得状況や就職状況をあげる学生が多く、同時に学科の特色、入試科目も大きな要素となっている。施設・設備や、社会的評価を受けているという実績に引かれたという回答も多い。

### ■決定要因

家族の意見が大きく影響。

### ■募集要項入手

本学ホームページからの直接請求が最も多い。

### ■本学の大学案内資料

好感を持ったという答えが大勢。授業実習・内容についてはもっと詳しく知りたかったという意見も出ている。

### ■志望校種別・決定時期

本学に決定した時期、および最も関心を持っていた学校種別からは、本学が必ずしも第一希望でない状況がうかがえる。

### ■高校種別

理系普通科45%、文系普通科42%で、ほとんどが普通科出身である。

### ■本学のイメージ

入学前の「教育体制の充実、資格などの目標実現、実力がつく短大、医療福祉の伝統校」というイメージは、入学後にもまったくいつていいほど変わっていない。一方「楽しそう、真面目そう、厳しそう」と思っていたイメージについては、微妙に変化している様子も見られる。

### ■入学後の満足度

75%がまずまず満足。多くの学生が満足であると答えている背景には、友人関係が良い、学科の内容が充実しているということがある。

### ■入学後の不満

生活環境に対する不満が最も多い。

今回のアンケート調査で、受験情報に関しては、ホームページ、オープンキャンパスの利用が多いところから、一層の充実を図る必要があることが改めてわかりました。また、入学前に学生が抱いた本学のイメージについては「思っていたほど厳しくなくて楽しい」というプラスの変化があると同時に、「寮や学内の施設・設備が古い」など生活環境面で不満も出ています。入試広報活動は、実際の大学生活の充実があつてこそ力強いものとなります。学生全員の満足度を高めるために、ソフト面での改善を図っていくとともに、ハード面での充実も急務でしょう。

# 建学の理念の実現に向けて

学長補佐 教務部長 下田 健治



本学では、建学の理念の一つである「人をつくる」という実現に向けて、平成十六年度より、教養豊かな人間の育成を目的として、医療福祉教養講座を開講しています。これまでの二年半に、医療・福祉・保育の専門家による十八回の講演会を開催しました。平成十九年度は、質、量ともに充実させることを目指し、種々の企画を織り交ぜ、十四回の開催を予定しています(表1)。本講座は、こ

れまでほぼ月に一回、金曜日の夕方に開催していましたが、この時間帯だけでは学科によっては聴講できないということがあります。今年度からは月に二回、月曜日と金曜日に開催することにしました。さらに改善策の一つとして、学生の聴講意欲をより明確にし、会場設営の効率化を図るため、聴講を事前に登録する制度(聴講事前登録制度)を導入しました。これらのこ

表1 平成19年度 医療福祉教養講座開催日程

回(通算)	月/日	時間	区分	演題名	講師名	所属等
19-1 (19)	4月6日 (金)	9:00 ~ 10:15	A II	患者さまに思いやりと笑顔添えて...	立道 妙子	(株)サンキ 経営企画部コンサルティング部 接客インストラクター
19-2 (20)	4月23日 (月)	16:30 ~ 18:00	A IV	栄養と運動	松枝 秀二	川崎医療福祉大学 臨床栄養学科 教授
19-3 (21)	5月11日 (金)	16:30 ~ 18:00	B I	感染症の予防について -医療現場で働くひとへ-	梶谷 喬	川崎医療短期大学 医療保育科 教授
19-4 (22)	5月21日 (月)	16:30 ~ 18:00	B II	手話とかかわって	土屋 教子	岡山県立おかやま福祉の郷 わかば寮 支援課長
19-5 (23)	6月8日 (金)	16:30 ~ 18:00	B III	子どもの人権の尊重と保護 -子どもの主体性と大人の主体性-	村中由紀子	山陽学園短期大学 幼児教育学科長(教授)
19-6 (24)	6月25日 (月)	16:30 ~ 18:00	B I	薬と上手につきあうために	内田 昌宏	川崎医療短期大学 看護科 教授
19-7 (25)	7月6日 (金)	16:30 ~ 18:00	A III	国際交流を考える -国際化と多文化理解	今西 通好	(株)イマシロ 代表取締役会長(社)岡山経済同友会常任理事
19-8 (26)	10月5日 (金)	16:30 ~ 18:00	A III	心理学に見る男女の違いと共生 -脳の性差と行動の差異-	保野 孝弘	川崎医療福祉大学 臨床心理学科 教授
19-9 (27)	10月22日 (月)	16:30 ~ 18:00	A I	子育て支援と子どもの安全について	説間 晋平	川崎医療短期大学 医療保育科 教授
19-10 (28)	11月2日 (金)	16:30 ~ 18:00	B IV	ノロウイルス対策について	渡辺 晃正	(財)岡山県健康づくり財団
19-11 記念	11月26日 (月)	16:30 ~ 18:00	A IV	医療福祉教養講座・開講30回 記念講演 『医療福祉のこころ』	岡田 喜篤	川崎医療福祉大学 学長
19-12 (29)	12月7日 (金)	16:30 ~ 18:00	A I	裁判員制度	未 定	未定
19-13 (31)	12月17日 (月)	16:30 ~ 18:00	B I	心電図は心臓から贈られた手紙	山本 誠一	川崎医療短期大学 臨床検査科 講師
19-14 (32)	1月11日 (金)	16:30 ~ 18:00	B I	医療と放射線	今城 吉成	川崎医療短期大学 放射線技術科 教授

表2 講座の教養型分類

大区分	教養型	小区分	領域名	開催回数/2年間
A	人間形成型教養 (10回/2年間)	I	知の領域(社会常識)	2
		II	技の領域(礼儀、コミュニケーション)	2
		III	師の領域(人権、倫理、国際)	2
		IV	総合領域(I~III以外の関連領域)	4
B	専門型教養 (18回/2年間)	I	医療領域(看護、臨床検査、放射線技術、臨床工学等)	8
		II	福祉領域(介護福祉等)	3
		III	保育領域(医療保育等)	3
		IV	総合領域(I~III以外の関連領域)	4
	全28回/2年間			28

とで、講座の円滑な運営が進むものと思えます。また、これまでの講演題目は、やや統一感に欠けた点がありましたので、平成十九年度は一般教養と専門教養をバランスよく配置し、一つの教養講座として体系化しました(表2)。

本講座が本年の秋には第三十回を迎えることを記念して川崎医療福祉大学学長岡田喜篤先生をお招きし、「医療福祉のこころ」と題した講演会を計画しています。

本講座の開講目的は、「学生にバランスのとれた教養を身につける機会を提供すること」にあります。学生は、種々の領域の講演をバランスよく聴講することによって幅広い教養を身に付けることができるものと考えています。しかし、この講義方式に満足しているわけではありません。それは、現在の講座が、知識を増やすことはできて、残念ながら知識を活用する能力を育む仕掛けとはいえないからです。専門的技術を磨くにはそれに関する知識は欠かせないことと同様に、知識を本物とするには実技

(体験)が同時に求められること、いわゆる知識と技術の融合が必須です。実際、



第21回医療福祉教養講座

今回、提示された演題のなかには無関係だと感じるものがあるかと思いますが、それは自分自身が知らないことによるものが多いものです。何でも聴いてみようという積極的な気持ちは、学生の皆さんの将来に大きな可能性を生み出すに違いありません。ぜひ、聴講してみてください。

◆ 第三者評価

# 適格認定を受ける

短期大学基準協会より

庶務課長 藤原 忠昭

「第三者評価」は、平成十四年度から文部科学省が義務づけた外部評価であり、文部科学大臣が認証した機関で受ける必要があります。本学は、去る三月二十二日付で、短期大学基準協会から「川崎医療短期大学は、平成十八年度（財）短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定された」との連絡を受けました。

さらに、五月十四日には、東京の「アルカディア市ヶ谷」で開催された平成十八年度第三者評価「適格認定証」贈呈式に守田学長、山口副学長が出席し、適格認定証を受領しました。本学にとって、誠に喜ばしい限りです。

総評では、「自らの掲げる教育理念の実現および教育目

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的、教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育の目標と達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしている」と判断した」とされています。領域別評価結果は表に示すとおりです。

以下、評価領域ごとの「優れていると判断される事項」、「向上・充実のための課題」、「早急に改善を要すると判断される事項」を示します。

なお、『機関別評価結果』の全文は、本学ホームページに掲載いたしております。

1 優れていると判断される事項

**評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標**

● 自己点検・評価の結果を踏まえて、建学の精神や教育理念の解釈の見直しが、全学をあげて定期的に行われている。

**評価領域Ⅱ 教育の内容**

● 学生による授業評価に対する教員のアンケート調査ならびにFDを実施し、さらに、授業担当者ならびに非常勤講師間で意思疎通、協力・調査について改善が図られるなど、授業の改善に積極的に取り組んでいる。

**評価領域Ⅲ 教育の実施体制**

● 図書館の利用サービス、マルチメディア学習室、学生自習室などが充実しており、学習支援体制が行き届いている。

**評価領域Ⅳ 教育の目標と達成度と教育の効果**

● 教育の高いサポート体制が充実しており、国家試験の合格率が極めて高い。

**評価領域Ⅴ 学生支援**

● 学力不足の学生には補習授業、進路の速い学生には資格試験を推奨し、効果をあげている。

**評価領域Ⅵ 研究**

● 科学研究費補助金などの外部資金を導入しながら多くの研究成果を発表している。

**評価領域Ⅹ 改革・改善**

● 比較的早い時期（平成五年度）より自己点検・評価を実施し、その結果を全教職員が共有し、向上・充実に努めている。

2 向上・充実のための課題

**評価領域Ⅱ 教育の内容**

● 教育の高いサポート体制にあわせて、全学的に統一されたシラバスの作成が望まれる。

**評価領域Ⅲ 教育の実施体制**

● 教育研究業務の負担の均等化が必ずしも充分とはいえないので、今後の改善に期待したい。

**評価領域Ⅳ 教育の目標と達成度と教育の効果**

● 就職先や編入学先からの評価についての意見聴取を一部の学科のみならず全学科で実施する一方、卒業生との接触、同窓会との連携を強化することを期待したい。

**評価領域Ⅵ 研究**

● 一部教員の研究業績は充分とはいえないので改善を期待したい。

**評価領域Ⅷ 管理運営**

● 学科間の教育に関する情報の交換・共有を積極的に推進して、連携・協働の強化が望まれる。

● 評議員会の出席者のうち、約半数が委任状出席というケースもみられるので、改善に努められたい。

**評価領域Ⅹ 財務**

● 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗

品および貯蔵品管理規程の整備が求められる。

3 早急に改善を要すると判断される事項

● なし

以上の評価結果を真摯に受け止め、是正を必要とする項目については、さつそく改善に取り組んでいます。すでにシラバスについては、全学的に統一されたものが作成され、また、学生便覧についても『学びとキャンパスライフ』という表題で内容の一層充実したものが完成し、新入生・在学生に配布を終えました。新年度を迎え、改まったシラバスや『学びとキャンパスライフ』を利用し、より充実した教育が展開されています。残る是正項目についても、現在、検討を開始しており、早い時期に改善できると思っています。

最後に、学校教育法に基づき、次回第三者評価は平成二十四年度に受けることになります。今後も全学をあげて、教育力の向上と果敢な改革力をもって、本学がさらに、発展するよう努めていきます。



適格認定証

編入学支援

# 四名の編入学生を招いて

## 第五回 編入学等支援ガイダンス

報告

教務委員会 編入学等支援小委員会 中原 朋生

第五回「編入学等支援ガイダンス」を平成十九年三月三日（土）十時半から十二時まで川崎医療短期大学二〇〇号大講義室において実施しました。今回は、編入学を果たした四名の卒業生・在学生を招き、シンポジウム形式で編入学のメ



編入学を果たした卒業生と先輩方  
左から、横峰さん、小網さん、香川さん、縄田さん

リット・デメリットや編入学試験の体験等を聴きました。当日は、編入学をめざす一・二年生三十名と教職員十名が参加し、編入学生の「生の声」を熱心に聴く機会となりました。

まず、岡山大学三年生横峰圭さん（本学放射線技術科二十七期卒業生）と川崎医療福祉大学三年生小網有加さん（本学介護福祉科四期卒業生）から、編入学のメリット・デメリットを中心とした話がありました。横峰さんは「本学の学生は多くの専門分野の単位と国家資格を取得したうえで編入学するので、編入後かな

り余裕を持って学習できる。また国家資格を使ったアルバイトもできる」などのメリットを、小網さんは「短大で興味を持った分野を大学でさらに深く広く学習できる」などのメリットを説明してくれました。デメリットとして、横峰さんは「どうしても、編入学生同士で集まってしまう人間関係が作りにくい」ことを挙げ、小網さんは「短大時代と異なり担任制などがなく、だれに相談してよいか分からないことが多々ある」ことを挙げていました。

後半は、本学看護科三年生香川恵理子さん（平成十九年四月より兵庫県立看護大学編入）と本学臨床検査科三年生縄田美穂子さん（平成十九年四月より九州大学編入）から、試験対策を中心とした話がありました。香川さんは、入学当初から編入学をめざし、英語の勉強をコツコツ続けてきたことや、看護実習と受験勉強の両立の難しさなどを話してくれました。縄田さんは、三年生になってから編入をめざしたとのことで、夏休み



全体説明の後も個別の質問が続きます。

科の先生方をはじめ、本学の編入学支援（ガイダンスおよび個別相談形式の「英語」・「小論文」対策）を受けて編入学を果たした様子がよく分かりました。

シンポジウム終了後は、四名を囲み、編入学をめざす一・二年生の参加者が熱心に質問をしていました。例えば、どのようにして、短大での学習や実習と編入学試験対策を両立させてきたのか、また、編入学したいという気持ちを持続させてきたのかなど、熱心に聞いていました。なかには終了予定の時間を過ぎても聞き足りず、会場外の学生ホールに場を移し先輩から話を聞いた参加者もいたほどでした。当日は、編入学試験対策を担当されている英語の名木田先生、小論文の橋本先生にも参加していただき、試験対策のコツなどを学生たちに伝授していただきました。

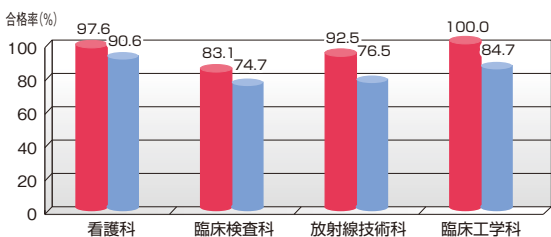
参加した学生たちの質問は真剣そのもので、これまでのガイダンスと一味違った成果を実感できた集いでした。関係の皆様のご協力に感謝いたします。

## 平成十八年度 国家試験結果

三月末から四月初めにかけて医療関係の平成十八年度国家試験合格発表がありました。平成十八年度も例年通り、全ての学科で全国合格率を上回りましたが、あと一歩で合格に至らなかった学生が少なからずいたことも事実です。近年の国家試験は、基礎的な内容の習得はもうろんでますが、様々な状況について、どのように判断し、対処するのが問われることもあります。病院等での実習をしつかり身につけることが重要です。

我々教員の目標は、常に「100%合格」です。これまで以上の教育成果が残せるよう教員一同、更なる努力を続けますが、最後は学生さん達の地道な努力の成果が「国家試験合格」を勝ち取ることにあります。今後も、全学科で「100%合格」を勝ち取れるように頑張っていきたいと思います。

平成18年度国家試験合格率（本学と全国） ■ 本学合格率 ■ 全国合格率



	看護科	臨床検査科	放射線技術科	臨床工学科
受験日	2月25日	3月2日	3月1日	3月4日
発表日	3月27日	4月6日	4月6日	3月26日



## 臨床工学科（卒業研究）

今回は、臨床工学科で行われている卒業研究について紹介します。

臨床工学科では、三年次において必修科目の一つとして卒業研究が実施されます。学生は二人一組（場合によっては三人一組）に分かれ、臨床工学科専任教員をはじめ、川崎医科大学や同附属病院内の十八ヶ所の部署（年度によって増減あり）に配属されます。気になる配属先ですが、二年次の年度末に、受け入れ可能な指導教員、および研究分野・テーマ概略のリストを学生に配布して希望調査を実施します。この希望調査をもとに、成績や学生本人の状況などを考慮して配属先が決定されます。

卒業研究の実施期間は、四月から十二月です。実際には臨床実習の都合により、六週毎に卒業研究と臨床実習を交代しながらの実施となります。したがって、各学生が卒業研究に携わる正味の時間は十二週ということとなります。



【写真1】 附属病院MEセンターでの卒業研究

研究テーマは「ME機器に関するインシデント報告の分析」。過去に報告された人工呼吸器使用時のインシデント（事故に至らないがひやっとした事例）について、看護師の協力を得ながら分析しています。

実施期間中は、配属先の教職員の指導に当たって実験、データ収集・解析、資料整理などを行います。昨年度の研究テーマを一部紹介しますと、「脈波伝搬時間の臨床的意義」、「血液透析時における体温変動と臨床的意義」、「腹膜透析液中NO計測とNO動態評価」、「心拍動下心外膜毛細血管の形態評価と流動特性の解析」、「電磁調理器から発生する中間周波数磁界の大型ループコイルを用いた測定」、「ME機器に関するインシデント報告の分析」などでした。このように内容は高度で多岐にわたっており、日々学生は悪戦苦闘しています（写真1）。

学生は秋口から非常に忙しくなります。並行して行われる卒業研究・臨床実習に加え、九月十一月頃にピークを迎える就職活動も重なります。また、十一月中旬には論文の提出（写真2）、続いて十二月上旬には卒業研究発表会（写真3）が開催されます。



【写真2】 卒業研究論文集

グループ毎にA4用紙4枚程度（文字数にして約9000文字）で研究内容をまとめます。初めて書く論文に多くの学生は四苦八苦します。締切り前には徹夜組も出現？



【写真3】 卒業研究発表会の風景（1）

毎年、12月上旬にメディカルミュージアム講堂で行われます。1、2年生も発表会を聴講します。参加は自由です。他学科の学生さん、教職員の皆さんいかがですか？



【写真4】 卒業研究発表会の風景（2）

各グループ10分（発表7分、質疑応答3分）で発表を行います。繰り返し練習して発表内容を頭に入れたはずですが…。緊張の一瞬です。

論文作成では、指導を受けてきた研究の内容をまとめて、論理立った文章で書かなくてはなりません。研究発表では、決められた時間内で自分たちの研究内容を分かりやすく発表するために、口述原稿とスライドを作成しなければなりません。パソコンを使いながら（使われながら？）、パートナーと協力して原稿・スライドを作成します。その後、何度も発表練習を行い本番の発表会に臨みます（写真4）。

卒業研究では普段の授業にないことを経験します。経験した「研究の思考と方法」は、実社会で直面する様々な問題の解決に役立ちます。一つの事柄を成し遂げ、達成感を感じることもできます。いずれにしても大学時代の良い思い出になることでしょう。

## 事務部から

### 定期試験について 新入生の皆さんへ



事務部教務課  
谷本 祐子

早いもので、来月（七月）には前期授業が終了します。そこで今回は、定期試験について紹介します。

定期試験は、原則として各学期末に実施されます。定期試験の時間割は、試験開始二週間前に発表があり、電子掲示板・二階学生掲示板・HR教室に掲示します。時間割の変更なども掲示でお知らせします。また、試験終了後五日以内には「再試験対象者表」を掲示します。なお、再試験は、「定期試験又は追試験に不合格となった者について、担当教員が必要と認めた場合」に実施されます。成績は「成績通知書」として皆さんに通知されます。

ただし、定期試験を受けるには、受験資格を満たしていなければなりません。受験資格は「当該授業科目につき、出席時数が授業実施時数の2/3（臨床（臨地）実習では実習時数の4/5）以上であること」です。試験直前になって、「出席時数不足で定期試験を受けられなくなった」ということにならないよう、安易な欠席で受験資格を失わないようにしましょう。

試験についての注意事項は、『学びとキャンパスライフ』の八・九ページに詳しく記載されていますので、必ず目を通しておいてください。

教員の活動紹介⑧

対人援助職の精神的健康維持・増進

一般教養 講師 森本寛訓



少子・高齢化やライフスタイルの変化によって、これまで以上に医療・福祉の充実は望まれるようになりました。それに応えるように、例えば特別養護老人ホームなどの社会福祉施設は増設されています。

医療・福祉は、人々の安寧（ウェル・ビーイング）を確保することを目的としています。そして、このために病気や障害を抱えた人々を援助する役割を担うのが対人援助サービス従事者（以下「従事者」と省略します）です。従事者には、本学が養成している看護師や介護福祉士、保育士などが含まれます。

対人援助には、そのための専門的技術や知識が必要です。同時に対人援助を求めの人々に対して、受容的、共感的態度を示す

ことが要求されます。例えば看護師は、ふだん注射や点滴を打つといった処置を行いなが



筆者が研究を行っている施設の子どもたち

ら、患者の悩みや苦しみを受けとめていきます。

対人援助が行われる際に、従事者の精神的健康が保たれていることは重要です。なぜなら、もし従事者がイライラしたり、うつうつとしていて精神的「不」健康であれば、専門的技術を正確に行使できなかつたり、受容的、共感的態度を示せなかつたりするからです。最近になって、「点滴の種類を間違えた」といった医療ミスや、高齢者福祉施設内での虐待などがよく報道されます。これらの事件の背景には、従事者の精神的「不」健康があったのではと推測できます。

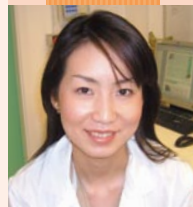
対人援助は従事者にとっては職業です。従事者には職業人として、自身の職業生活の質（クオリティ・オブ・ワーキング・ライフ）を高める権利があります。その意味でも従事者の精神的健康は保たれるべきでしょう。しかし、それだけではなく従事者の精神的健康を保つということも、対人援助の質を高めるためにも必要なことなのです。

私の研究は「従事者の精神的健康維持・増進策の検証」をテーマにしています。今後は「対人援助の質を高めるための精神的健康維持・増進策」についても検証していきたいと考えています。

先輩から後輩へ⑧

医療従事者として国際貢献を

Japan Green Medical Centre 放射線部 兼重貴子（放射線技術科十八期生）



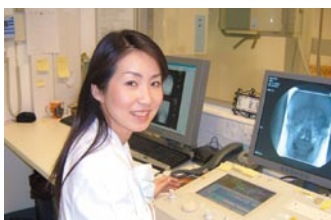
私が勤務しているJapan Green Medical Centreは、ロンドンにある日系クリニックです。母体は、岡山県にある倉敷成人病センターで、ロンドン以外にもシンガポール、上海にクリニックがあります。ここでは一般外来と、イギリス他、近隣諸国の方々の健康診断を受け付けています。

イギリスには、国がサポートして、誰でも無料で医療を受けられるNational Health Serviceというシステムがあります。なんて太っ腹な国だと思ってしまうのですが、無料も良し悪しで、

検査を受けるまでの期間が恐ろしく長いのが現状です。そのため、多くの人は高いお金を払ってでも、民間の医療機関で早急に診察を受けています。私のクリニックも民間ですが、海外旅行保険などが使えるため、留学で来た学生や駐在員の方が多数利用しています。また、医師やスタッ



クリニックの外観（英国の券田宮）



職場の風景（充実した毎日）

フは日本人であり、ここ英語圏で安心して医療を受けられるのも大きなポイントです。私は川崎医療短期大学を卒業し、福岡県の済生会二日市病院で三年間、診療放射線技師として働きました。その後、技師職とは関係なく、語学留学のためイギリスに渡り、縁あってここでの仕事を見つけ現在に至ります。日本で働いた三年間や、ここで出会った先輩方からのご指導が、今の技師としての基礎を築いてくれました。私たち技師は、どこにいようと日々進歩する検査技術の習得は必須です。皆さんが社会へ出た際には、日常業務をただこなすのではなく、スキル向上と患者さんへの思いやりや<sup>くち</sup>労りをもった接遇を忘れない技師であることを心掛けてほしいと願っています。

診療放射線技師として海外へ出るケースはまだあまりないため、私のようなケースはご存知ない方も多いかと思いますが、ある程度の実務経験と語学力（その国の免許取得を考えた場合）、あとはやる気次第で可能です。医療スタッフは、どの国でも必要とされていますし、海外に出て違う世界を見ることによって、医療技術だけに留まらず学ぶべきことがたくさんあります。

最後に、皆さんが進む将来の選択肢の一つに「海外で働く」ことを是非加えてみてはいかがでしょうか。

# 新任教職員紹介

本年度から本学の仲間になられた教職員の方々を紹介します。

介護福祉科 主任・教授 **橋本 祥恵**

21世紀に求められる介護福祉士像に向けて、今、教育現場には課題が山積しております。どうぞ、皆様のお力添えとご指導をいただけますようお願いいたします。



臨床検査科 教授 **畠 二郎**

川崎学園に赴任して4年が過ぎました。臨床検査医学は非常に奥の深い分野ですが、学生と共に学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



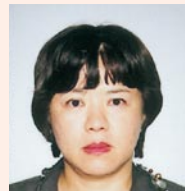
一般教養 准教授 **橋本 美香**

昨年度まで非常勤講師として、文章表現等の講義と編入学試験対策を担当させていただいておりました。この度、専任として着任いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。



看護科 准教授 **森 祐子**

母校である本学に病院と兼務でお世話になることになりました。心に残る実習ができるよう本学と病院の架け橋として頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



臨床検査科 准教授 **伊禮 功**

5年間、本学の非常勤講師として、勤務していましたが、この度、本学と病院との併任を拝命しましたので、これまで以上に、学生教育に尽力するつもりです。よろしくお願いいたします。



臨床検査科 講師 **黒川 幸徳**

附属病院で26年間、微生物検査を担当し、その後7年間は検査のコンピューターシステムなどを担当してきました。これらの経験を本学での教育で活かしていきたいと考えております。



臨床検査科 講師 **野田 幸代**

この春、かつて自分が学生として経験した入学式を教員の席で迎えたことに、感慨深いものがありました。川崎医科大学附属病院中央検査部との併任ですが、臨床検査科の学生とともに学び、医療人としての成長を助けていくことができればと思っています。



看護科 助教 **阿部 裕美**

今年度から看護科に着任し小児看護学を担当することになりました。少子化が進む中で、子どもと接する機会の少ない学生に、子どものもつ魅力や小児看護の役割・倫理観をしっかりと教授し、また同時に看護を学ぶことの楽しさを伝えていきたいと思っています。



看護科 助教 **日野 照子**

はじめまして。この4月から小児看護学を担当させていただきますことになりました日野と申します。私は、本学の卒業生です。母校で仕事ができることを大変嬉しく思っています。教育の現場は今回初めてでご迷惑かけることも多いと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



臨床検査科 助教 **中原 貴子**

はじめまして。今春から臨床検査科で学生教育に携わることになりました。後輩となる学生の皆さんに本学で恩師から学んだことを伝えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



介護福祉科 助教 **平田 貴子**

はじめまして。この4月から介護福祉科で働かせて頂くことになりました平田と申します。新しいことで戸惑うこともありますが、学生と共に成長していきたいと思っています。笑顔で頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



医療保育科 助教 **中川 智之**

はじめまして。4月から医療保育科に勤務しています。小学校で子ども達と一緒に過ごした経験を生かし、保育士を目指す学生の力になれるようがんばります。よろしくお願いいたします。



医療保育科 助教 **中井 靖**

これまで臨床心理士として発達障害児・肢体不自由児の療育、児童虐待を含む育児相談をしてきました。この経験を生かして勤務したいと思います。よろしくお願いいたします。



医務室 養護職員 **瀬戸 和子**

川崎医科大学附属病院看護師としての約30年の経験を生かし、「明るく、やさしく、温かく」をモットーにどなたでも入りやすい医務室にしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



学生相談員 **中野 麻衣子**

4月から学生相談の担当となりました。水曜日の午後1時から6時まで相談室に在室しております。学生時代は社会にでる準備の期間です。そのころには悩みや、さまざまな問題が出てくるかと思っております。そのような時には一人で悩まずに学生相談室においでください。



学生相談員 **東郷 和美**

はじめまして。今春から母校である本学にお世話になっております。母校にまたお世話になれること、嬉しく思っています。学生の皆さんとともに成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



# 今年のオープンキャンパスはひと味違う!!

## 2007年オープンキャンパスの日程

今年度のオープンキャンパスの実施については、「オープンキャンパス専門委員会」を中心に、検討を重ねてまいりました。その結果、各回、右記のとおりメインテーマを決め、実施内容も昨年度より、かなり充実したものを計画することができました。この度は、第3回（7月29日）、第4回（8月25日）オープンキャンパスの主な内容を紹介いたします。

是非一度、  
本学のオープンキャンパス  
に参加してみてください。

	日程(再掲)	メインテーマ
第1回	5月26日(土) 13:00~16:00	はじめの一步はオープンキャンパス!
第2回	6月17日(日) 13:00~16:00	教えます! 川崎医療短大の入試と中身
第3回	7月29日(日) 10:00~15:00	めざそう! 医療・福祉・保育の専門家
第4回	8月25日(土) 13:00~16:00	ワン・アンド・オンリー -川崎医療短大でしか学べないこと-
第5回 (学園祭)	10月13日(土) 10:00~15:00	広く知ろう! 川崎学園ネットワーク
	10月14日(日) 10:00~15:00	

## 内容

	主な内容	その他
第3回	①全体説明会(平成20年度入試概要説明) ②平成19年度入試問題解説講座 (推薦:国語・英語・数学、一般前期:英語・数学) ③医療福祉教養講座上映 ④学食体験 ⑤附属病院見学(中央放射線部・中央検査部など) ⑥学科紹介・体験学習・在学生との懇談 ⑦進学等なんでも相談コーナー など	無料送迎バス運行 (本学⇄中庄駅) 図書館・情報教育室自由見学 短大グッズ進呈 飲み物提供 【AO入試第1回面接】
第4回	①全体説明会(平成20年度入試概要説明) ②平成19年度入試問題解説講座 (一般前期:国語・理科) ③面接の受け方講座 ④医療福祉教養講座上映 ⑤学科紹介・体験学習・在学生との懇談 ⑥学内施設・学生寮見学 ⑦進学等なんでも相談コーナー など	無料送迎バス運行 (本学⇄中庄駅) 図書館・情報教育室自由見学 短大グッズ進呈 飲み物提供 【AO入試第1回面接】

## 主要行事(7月~9月)

7月	6日 第25回医療福祉教養講座 17日 臨床工学科3年学外病院実習(~27日) 29日 第3回オープンキャンパス 30日 定期試験開始
8月	20日 第8期師生訪問団上海訪問(~24日) 25日 第4回オープンキャンパス 27日 臨床検査科3年臨床実習Ⅲ・ 臨地実習開始
9月	3日 医療保育科2年保育施設実習(~15日) 7日 介護福祉科1年実習開始式 10日 AO入試願書受付開始(~22日) 介護福祉科1年第一段階実習(~25日) 11日 臨床工学科3年病院実習開始 (~12月7日) 20日 臨床検査科ワッペン授章式 27日 看護科戴帽・授章式 29日 AO入試 放射線技術科授章式

## 平成19年度 川崎医療短期大学 協会役員

会長	太田 恵三	(医療保育科3年)
副会長	洲脇 伯造	(医療保育科2年)
副会長	守田 哲朗	(川崎医療短期大学学長)
監事	阿部 昭彦	(看護科3年)
監事	横山 伸一	(臨床工学科2年)

## 川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(57号)

平成19年6月発行

編集発行：広報誌編集委員会

名木田恵理子(一般教養・委員長)  
藤原忠昭(庶務課・副委員長)  
橋本美香(一般教養) 影本妙子(看護科)  
近未久美子(臨床検査科) 天野貴司(放射線技術科)  
立花博之(臨床工学科) 河邊聡子(介護福祉科)  
中井 靖(医療保育科) 重政有里(庶務課・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194

倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032(庶務課)

Eメール：shomu@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ

http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/home/

感謝申し上げます。

(天野 貴司)

三月末で広報誌編集委員の任期が終わり、四月から新しい体制のもと、編集作業が進みました。委員長と副委員長は再任、その補佐的役割として、臨床検査科の近未久美子先生と筆者である私が「まとめ役」となりました。また、交代によって看護科の影本妙子先生、臨床工学科の立花博之先生、医療保育科の中井靖先生が仲間に加わりました。さらに、これまで以上の強力な体制を実現するため、新たに日本語教育の専門家である一般教養の橋本美香先生も迎えることができました。いままでとは一味違う広報誌『若きいのち』が誕生したと自負していますが、皆さなかたがどうでしょうか。

各号三ヶ月という非常に短い作業期間で発行できるのは、委員の協力と努力のみならず、多くの方々のご協力とご支援があつてのことです。委員一同、そのことを常に忘れず、各号の編集作業に努める所存です。特に、無理な原稿依頼を快く引き受けてくださった執筆者の方々には、この場をお借りし深く

## 編集後記